

(2) 小規模多機能福祉ホームの普及

小規模で多機能な高齢者の福祉ホームや、子ども・高齢者・障害者など誰でも利用できる共生型の福祉ホームが、山鹿市や熊本市、水俣市など県内各地に開設されつつあります。

ここでは、利用者の慣れ親しんだ地域を拠点に、通って、泊まれて（自宅での生活が困難になったら住むことができる）、自宅にも出向いてくれる、または地域の人の集いの拠点となるような福祉ホーム（今後目指されている事例も含む）を紹介します。

いつでもすきな時においで ～NPO法人コレクティブ(熊本市)～

「呆けても地域の中で普通に生きられる」ことを目指し、通って、泊まって、家にも出向き、住むこともできる小規模多機能施設「いつでも、どこでん」を山鹿市に開所。この「いつでもどこでん」は、子どもから障害のある人、痴呆の高齢者まで、対象者を限定しないデイサービス（いわゆる富士山方式）を実施しています。

老人クラブや民生委員の強力なサポートのもと、利用者、近所の人、または職員がいつもふれあい、近くで採れた野菜や果物に舌鼓をうっています。

また当法人では、痴呆高齢者の小規模多機能ケアホームとして、全国に有名な「きなっせ」のほか、「おいでなっせ」、「きなっせ、きなっせ」も開所しています。

「いつでもどこでん」の平面図

デイサービス

子どもからお年寄り、障害のある人まで、みなさんどうぞ！

地域サポートセンター

地域の介護の相談なんでもどうぞ！

住まい

痴呆性高齢者のお家、緊急避難時のお家があります。

食事のサービス

食堂・喫茶があります。地域の人いつでもどうぞ…。

交流スペース

地域のみなさんがふれあう場を提供します。



【赤ちゃんを抱いて】

住まい

障害者のお家

ホームヘルプ

地域に出かけていきます。

ナイトケア

夜中でもケアします。

輝いて地域で暮らすステーション ～銀河ステーション(菊水町)～

通所授産施設である当ステーションでは、施設内のパン工房、陶芸工房、喫茶店などを活用して、一人ひとりが誇れる仕事と責任を持って生活しています。

また、自治会を中心に行われている一人暮らしの高齢の方の安否確認や敬老会行事等に積極的に参加し、プロ級?の踊りを披露し、地域の人気者となっています。

利用者は主に、グループホームや近くのアパート等に住み、地域の人とのふれあいの中で暮らしています。

このように、当ステーションでは、通所授産、デイサービス、ショートステイ、グループホーム、ピアカウンセラー、自治会活動など、障害があっても地域の中で、いきいきと輝いて生活ができるように、色々な支援をしています。

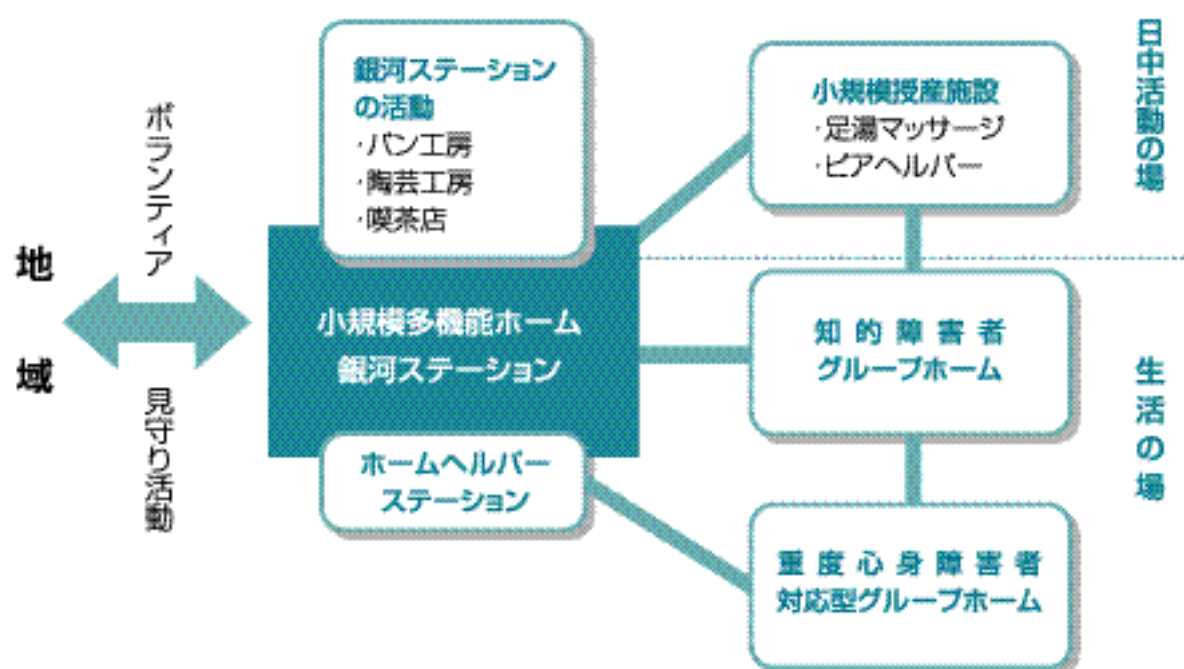


お元気
ですか?



【高齢者の安否確認】
(銀河ステーション利用者)

「銀河ステーション」生活支援システム



現代版駆け込み寺「はぶの」 ～玉東町社協～

住み慣れた地域の中で、民家を利用し、これまでの生活の延長線上に介護の整った空間を提供する介護ホーム「はぶの」を平成13年9月に開設しています。

公的福祉の対象者だけでなく、支援が必要な高齢者や障害児・者なども一緒に利用できる県内では極めて珍しいホーム。社協が設立するのは初めてで、困ったときに臨機応変に対応する「駆け込み寺」的役割を担っており、24時間365日、サービスを提供しています。



【いつも笑顔の仲間達「はぶの」】

利用者はいつも、リビングルームで話をしたり、絵を描いたり、自分の好きなことをして、笑いの絶えない暮らしをされているようです。

縦割り制度の枠組みを超え、地域で暮らす人への柔軟なサービスを提供しており、近隣住民も、施設の修理や食材の供給を安価で提供するなど、住民参加型・住民本位の地域福祉を推進しています。

地域の人とともに「ゆるりの家」 ～グリーンコープゆるりの家(松橋町)～

グリーンコープ生活協同組合の組合員活動に参加していた宮本さんは、1998年に地域の仲間と「たすけあいワーカーズ笑(えみ)」を立ち上げ、訪問による家事、介護の支援を始め、2002年に、元呉服屋を改装したデイサービスセンター「ゆるりの家」を開設しました。

利用者は、ほとんどの人がご近所に住む高齢者で、自分の好きな時間に来て、気分が良い時は刺繍をしたりテレビを見たり、気分がすぐれないときは横になったり、自宅での生活が不安になった時は泊まることもできる等、利用者の状態に応じたケアを実践されています。

また、全員の方が楽しみにされているのがお風呂で、誰でも気持ちよく入浴できるようにと、一人ずつお湯を入れ替える等、きめ細かな配慮が、あちらこちらに見られました。

宮本さんによると、「地域に受け入れてもらうには、積極的に地域の中に入っていくことが大事」と、地域(商店街等)のまつり等の行事や、地域の役員会等にも積極的に参加され、地域の人に信頼される多機能型の福祉ホームを目指されています。



【商店街にある「ゆるりの家」】

地域と共に“学び”“ふれあい”「高瀬ハウス」

～NPO法人地域たすけあいの会(玉名市)～

生活している人の様々なニーズに対応し、お互いに支え合い、「誰もが地域で安心して暮らせる社会を目指して」をスローガンに、多機能型福祉ホームを開設しています。

【サービスの内容】

① 子育てサポート(地域の中で育てる保育プログラム)

働くお父さんやお母さんのサポートとして、子どもたちに関するSOSはもちろん、子どもたちを地域の中で育てる保育プログラムの取組みを行います。

例えば、「高瀬ハウス」の裏側でのレクリエーション、繁根木川での川遊び、菊池川の傍ところがしなど、高瀬のまちの中で笑顔がみえる子育てを一緒に目指しています。

② 高齢者の生きがいづくり(デイサービス)

お年寄りがいろいろな知恵を伝授する文化交流の場

* 利用者は要介護認定者に限らず年中無休で利用。

* 介護保険対象分については、利用日→月～土曜日、利用料→介護保険の自己負担分

③ 地域の人々の集いの場(生活相談・援助・ふれあい)

様々なイベントを通じて、地域で生活する人々と共に学びあえるふれあいの場であり、普段の生活の中で困っていることや不安を解消するための相談場所ともなっています。



【みんなで絵描き】



【みんなでピンボール】

縦割りを越えたサービスの提供 ～NPO法人溢心会(宇土市)～

高齢者ケア付きホーム、デイサービス、保育園など、高齢者、障害者、児童という行政の縦割りを越えたサービスの提供や、それぞれのノウハウを生かしたり、相互交流の機会を設けたりするなど、総合的に福祉サービスを提供しています。

【サービスの内容】

- ① **デイサービス**：スタッフが自宅へ送り迎えを行い、趣味活動、レクリエーション等の集団活動を通じ、高齢者の身体機能の維持向上、機能訓練、入浴等のサービスを行います。
- ② **訪問介護指導サービス**：ホームヘルパーや介護福祉士が家庭を訪問し、家族介護実技指導を行います。
- ③ **一時預かりサービス**：お年寄りや障害のある人を預かり、他の利用者とのコミュニケーションの促進や、身体機能の維持のための指導を行います。
- ④ **買い物代行サービス**：高齢者や障害者の家庭に赴き、買い物の代行を行います。
- ⑤ **ケア付きホーム**：要介護者を対象に、ご自宅と同じ感覚で過ごして頂きながら、他の利用者の方々やスタッフとの交流を深めています。日常生活におけるお世話はヘルパーが行います。

静かな山間地にある地域の家「野川の家」 ～NPO法人NPOみなまた～

水俣市の野川地区(山間地集落)にある「野川の家」は、高齢者が地域のみなさんとより長く一緒に過ごせるよう「通う」「泊まる」「住む」という機能がある、いわゆる24時間型の小規模多機能ホームを目指しています。

また、障害のある方等を一時預かることも出来る共生型も今後の方向とのこと。

高齢者のFさんは、不眠等があって落ち着かれない状況でしたが、週2回のデイサービスやショートステイを利用するうちに、少しずつ落ち着き、スタッフと一緒に、買い物を楽しんだりされるようになりました。

「車椅子で散歩をしていると遠くの畑で作業されている方から、声をかけられたり、新鮮な野菜をいただき、地域で支えられていると感じることも多い。」と利用者の声。

「老いても、痴呆があってもその人らしく生活していくために、個性のある高齢者をおあるがままに受入れ、寄り添って、ともに生活していくことを心願しています。」とスタッフの声。

住み慣れた地域の中で、地域の家としての機能を担っています。



【静かな山間地にある野川の家】

県外の事例も紹介

一人ひとりの利用者を大切に「のぞみホーム」 ～NPO法人のぞみ会(栃木県)～

一人ひとりの利用者を大切にしたい、その人らしい生活が送れるように支援したいと熱く語るのぞみホーム施設長奥山さんは、サービスに利用者をお合わせるのではなく、利用者の個々の生活スタイルにスタッフが合わせることを徹底しています。

だから、当ホームに通っていた人の体調が崩れてショートステイが必要になったときは「泊まる」サービスをはじめ、デイサービス以外の時間帯の自宅介護をホームヘルプで助けてほしいとニーズがあったときは「家を訪ねる」サービスを開始しました。

また、デイサービスに来られなくなった人の家を日中訪ねて行って様子を見るような細やかな支援も行っています。

デイサービスを利用しても、ショートステイを利用しても、いつもの慣れ親しんだ環境で、顔なじみのスタッフが寄り添ってくれる安心さは何事にも変えがたいもので、特に急激な環境の変化が大きな負担となる痴呆高齢者にとってのぞみホームは居心地の良い場所となっています。

【サービスの内容】

- ① デイサービス
- ② ショートステイ(泊まる)
- ③ ホームヘルプサービス
- ④ グループホーム(住まう)
- ⑤ ケアプラン作成



のぞみホームに欠かせないもの



地域の中で“共同生活”「このゆびと～まれ」

～NPO法人このゆびと～まれ(富山県)～

「このゆびと～まれ」は、富山市内の閑静な住宅街に位置し、NPO法人このゆびと～まれが運営し、痴呆性高齢者や知的障害者、遊び盛りの子どもたちまで、あらゆる世代の人々が集まる民間デイケアハウスです。

小さい子どもが何人もおり、走り回ったり、本を読んでもらったり、昼寝したりして何とも楽しいこと。また、じいちゃん・ばあちゃんはパズルをしたり、テレビをみたり、お話しをしたり、それぞれ自分の好きなことをやっています。寝たきりのおばあちゃんが、子どもが走り回っている姿をやさしい目でみつめられている光景はなんとも印象的です。

また、障害者(児)が、有償ボランティアや無償ボランティアとして、子どもと遊んだり、おじいちゃん・おばあちゃんのお世話をしたりなど、自分の好きなときに自分の好きなことをやっています。

元々は、通所介護やデイケアに来ていた障害者(児)だそうです。

子ども、お年寄り、障害者、それぞれが役割を果たし、誰が利用者で誰がスタッフなのか分からない、まるで昔の大家族の雰囲気を感じさせる家庭のようです。

家族のニーズに応えるため年中無休で、泊まることも住むこともできます。

【代表者の声(始めたきっかけ)】

「畳の上で死にたいと言うとるがにどうして死なれんがけ？」

「昔はお年寄りも障害者とともに地域で暮らしていた。区別して1ヶ所に集めている方が不自然なのでは…」

「このゆびと～まれは、昔の地域社会で当たり前にあった光景を再現しただけ」

【ある1人の入所者】

「このゆびと～まれ」開設当時から通っていたAさん。重い痴呆があったが、通うようになって明るく頼りになるおばあちゃんに変わった。本人は手伝いに来ていると思っていた。Aさんが亡くなる前の5日間、スタッフが交代で添い寝をし、安らかに息を引き取られた→「みとり」

われら、地域とともに、
大家族～～♪

